

# 弥陀ヶ原の火山活動解説資料（平成 25 年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部  
火山監視・情報センター

東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降、弥陀ヶ原周辺では地震活動が活発な状態となりました。その後、周辺の地震活動は低下しつつも継続しています。一方、弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しました。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

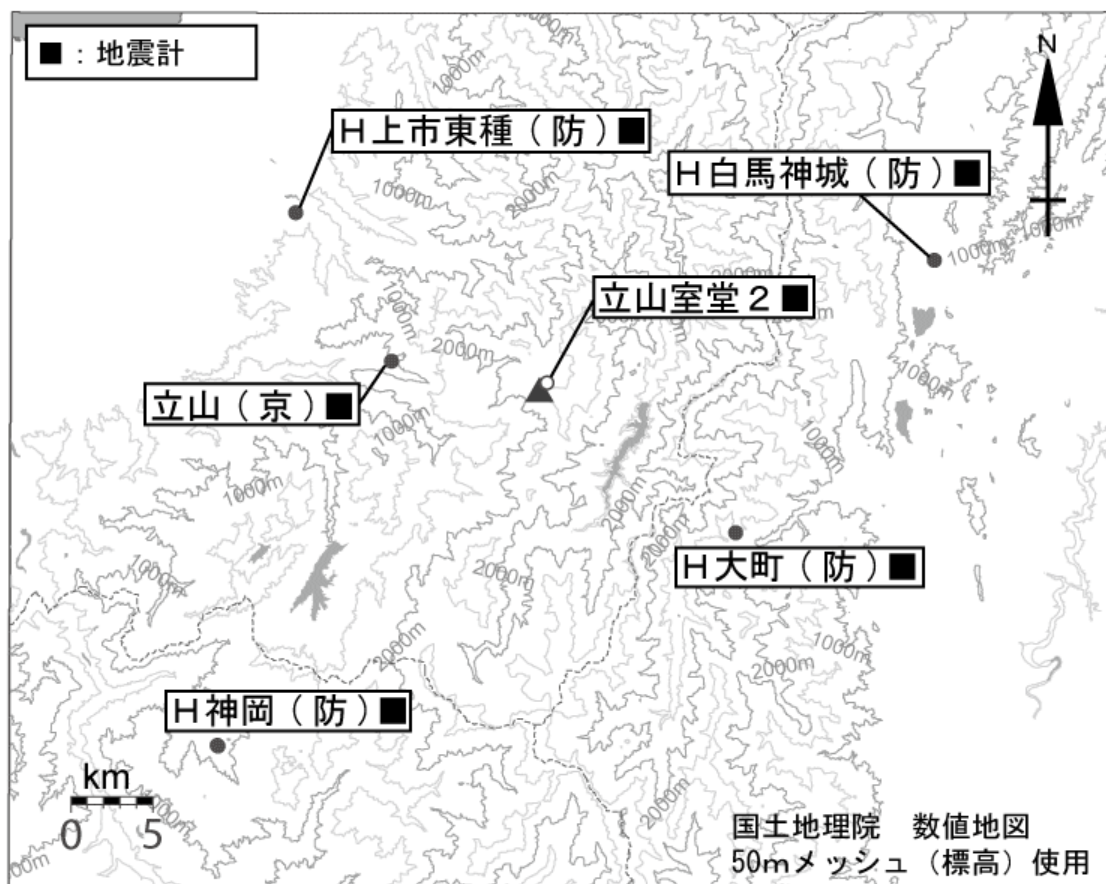
## ○ 活動概況

### ・ 地震や微動の発生状況（図 2）

弥陀ヶ原近傍を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

### ・ 噴気・地熱等の状況（図 4、図 5、図 6）

1 日～4 日にかけて地獄谷噴気地帯の現地調査を実施しました。紺屋橋南東斜面では、引き続き活発な噴気活動が認められ、轟音と共に激しく噴気を出していました。また、その他の噴気孔についても、引き続き活発な噴気活動が認められたほか、新たに遊歩道の上に噴気孔が形成されるなど噴気孔の様子が変化している場所も見られました。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
（防）：防災科学技術研究所、（京）：京都大学防災研究所

図 1 弥陀ヶ原 観測点配置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 11 月分）は平成 25 年 12 月 9 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

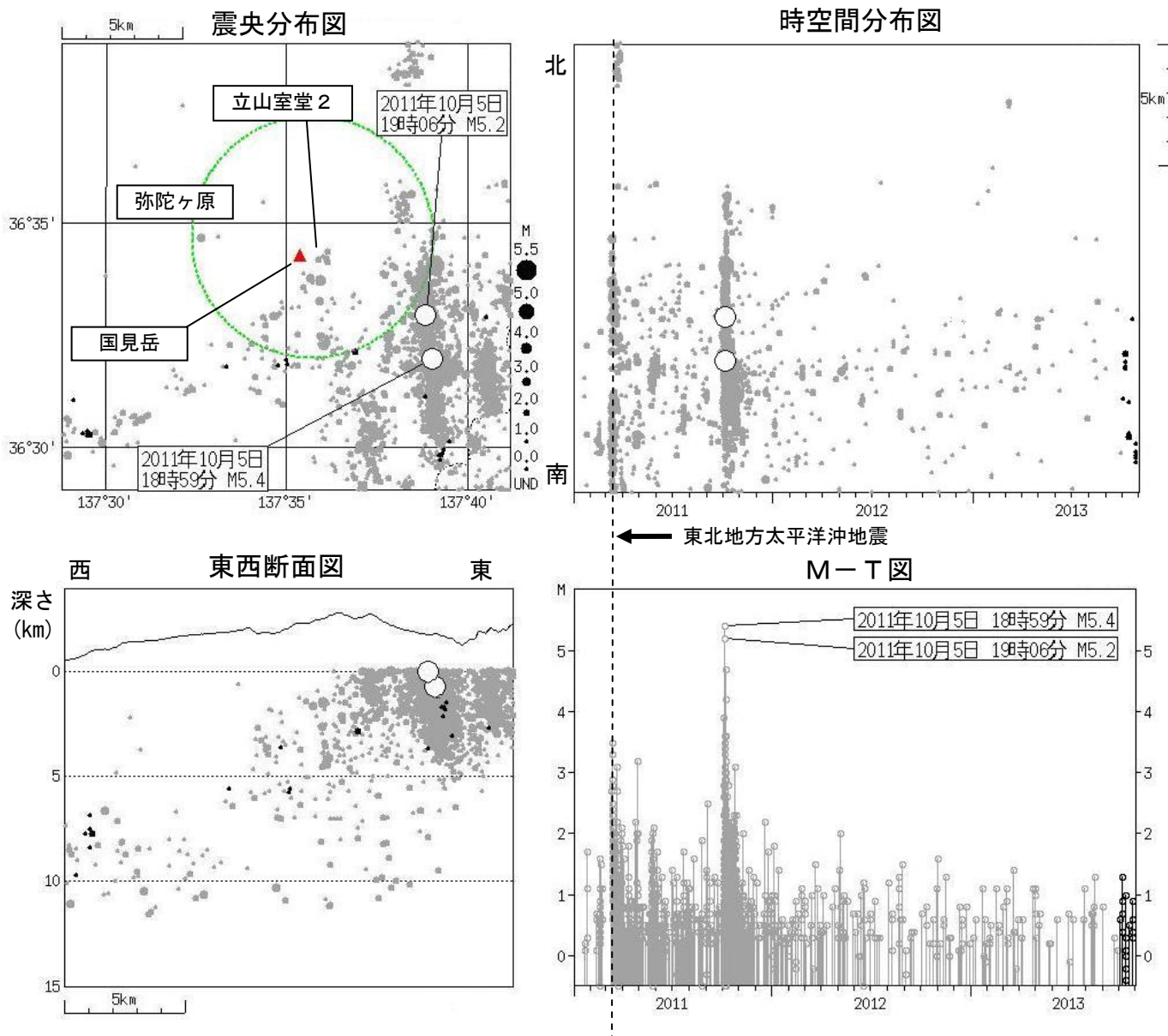


図2 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011年1月1日～2013年10月31日）

- ：2011年1月1日～2013年9月30日    ●：2013年10月1日～10月31日
- ・ 緑色の点線の円は、立山室堂に設置した地震計（立山室堂2）でS-P時間1秒以内となるおよその範囲を示します。
- ・ 今期間、周辺の地震活動は低下しながら継続しています。
- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調な状況で経過しました。
- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- ・ 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。



図3 弥陀ヶ原 地獄谷地図

(図4、図5の位置及び図6の撮影位置・方向を示します)

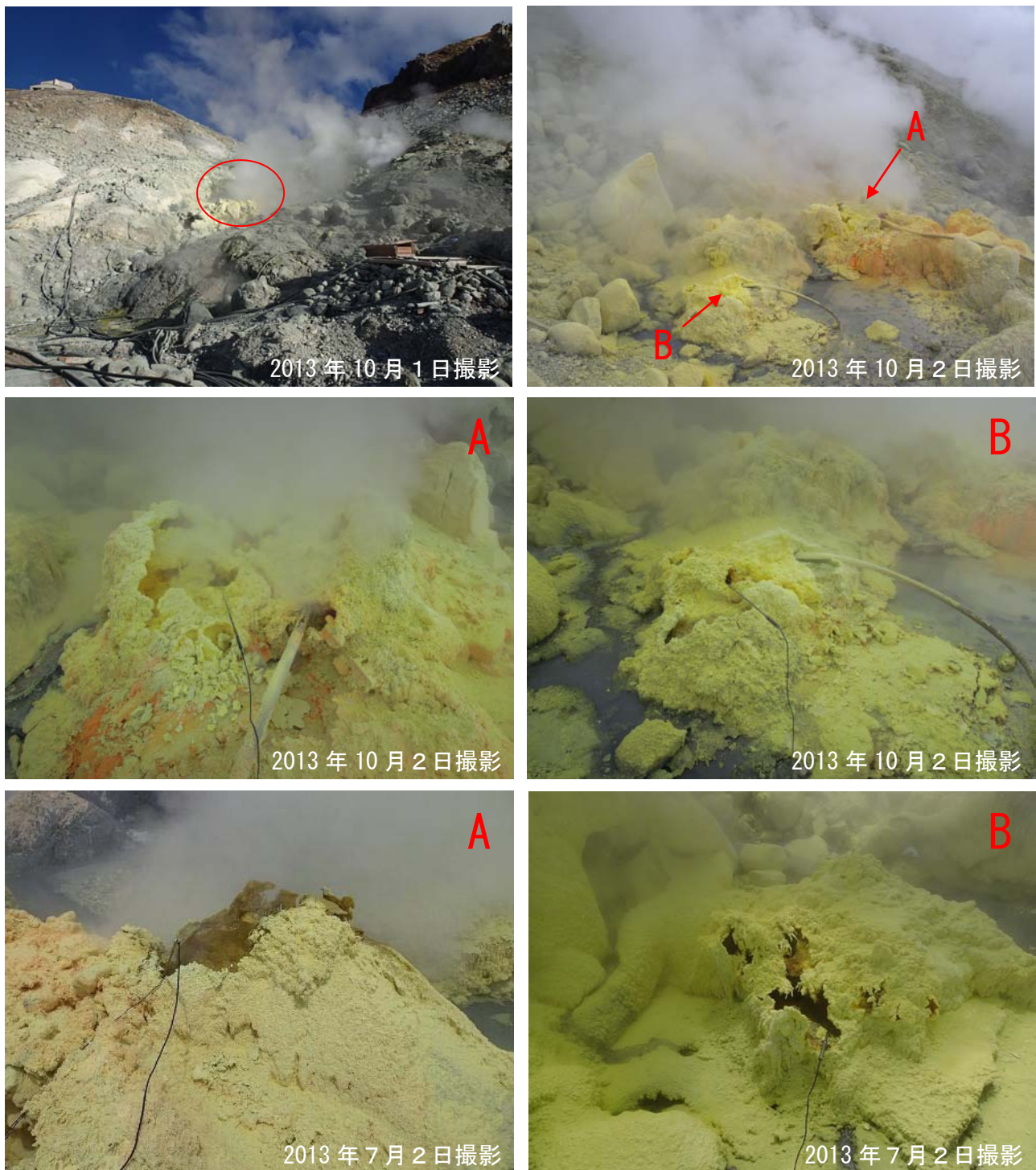


図 4 弥陀ヶ原 地獄谷紺屋橋南東斜面の状況

- ・ 撮影位置は図 3 を参照
- ・ 左上：全景
- ・ 右上：左上写真赤○内の噴気孔の様子。二つの噴気孔（A、B）があります。
- ・ 左中・右中：噴気孔 A、B の様子（今回調査；2013 年 10 月 2 日）
- ・ 左下・右下：噴気孔 A、B の様子（前回調査；2013 年 7 月 2 日）



図 5 弥陀ヶ原 地獄谷遊歩道の状況

- ・撮影位置は図 3 を参照
- ・上：今回調査（2013 年 10 月 1 日）
- ・下：前回調査（2013 年 7 月 2 日）

遊歩道上の陥没した所には、前回の調査ではなかった湯が溜まっていた（赤○）。また、手前には新たな噴気孔が形成され、その周りには新鮮な硫黄昇華物が付着していました（白○）。

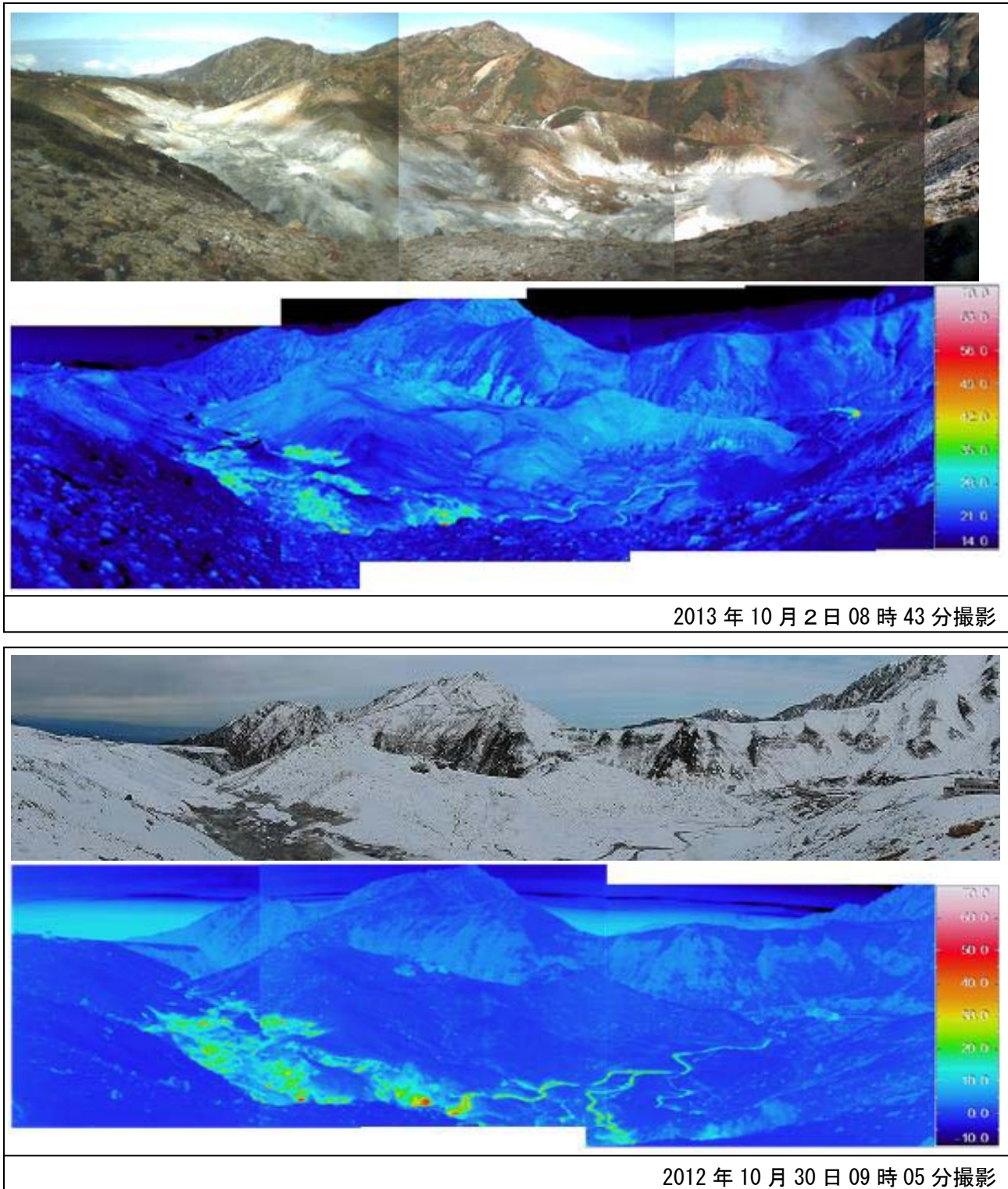


図 6 弥陀ヶ原 地獄谷噴気地帯の地表面温度分布

・撮影位置と撮影方向は図 3 を参照

前回（2012 年 10 月）と今回（2013 年 10 月）の比較では、高温域の分布に特段の変化は認められませんでした。